



全国棚田(千枚田)連絡協議会

# 棚田ライタラス

第60号 2012.3.25

(年3回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集／ふるきやらネットワーク

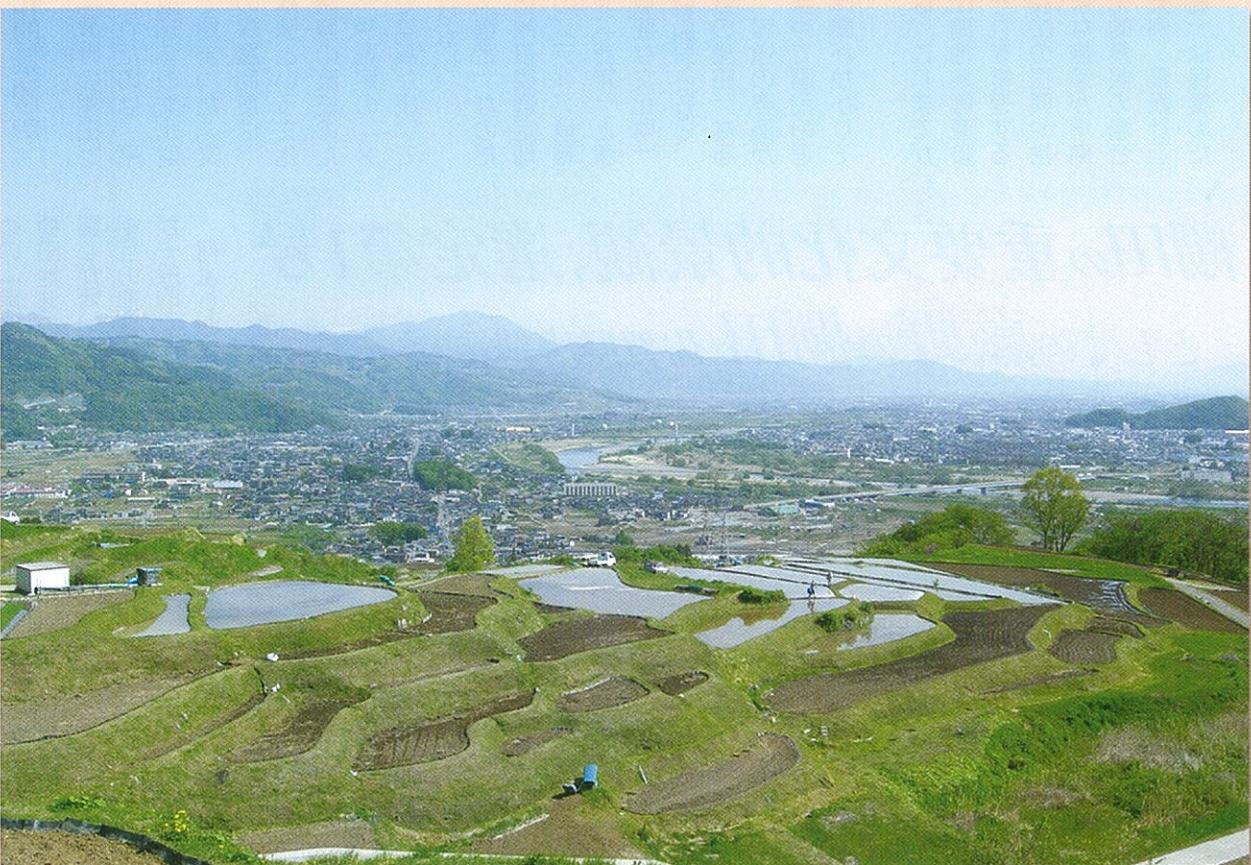
〒184-0004 東京都小金井市本町6-5-3チーム石塚内

TEL:042-386-8355 / FAX:042-385-1180

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

## 特集・文化的景観への道、そしてその先

姨捨の棚田(長野県下伊那郡市)。中世から近代に形成された日本を代表する棚田の文化的景観として、平成22年2月22日選定(写真提供：千曲市教育委員会)



奥飛鳥の文化的景観(奈良県明日香村)。明日香村にある稻瀬の棚田は、奥飛鳥の文化的景観の重要な構成要素の一つ。平成23年9月21日選定(撮影：加藤秀行)



特集は蕨野の棚田(佐賀県唐津市)、樺原の棚田(徳島県上勝町)、岳の棚田(長崎県雲仙市)、熊本県山都町など  
トピックス・新たな担い手「地域おこし協力隊」ほか

# 文化的景観への道、そしてその先

新たなる価値、重要文化的景観選定。いま、そこではどんな課題が浮かび上がっているのか——追跡する

## 棚田百選か重要文化的景観か

佐賀県唐津市相知町の「蕨野の棚田」が重要文化的景観に選定されたのは、平成20年7月であった。平成16年の文化財保護法の一部改正によって始まった「文化的景観としての棚田」の保護制度は、その本質的価値の保存・継承という文化財保護と、住民の生活・営農の継続のための「現状変更のあり方」や選定の「メリット」をめぐって各地で論議が続いているが、蕨野もその例外ではない。

そもそも、この制度は「選定」なのだが、蕨野発（他の重要文化的景観選定地でもそうなのだが……）のメディア情報では、しばしば「指定」や「認定」と誤報され、あるいは「国の重要な文化財」でありながら、重要文化的景観ではなく、いまだに「棚田百選・蕨野の棚田」なる呼称が好んで用いられる。報道の姿勢がそうなのだから、住民を含めて国民の理解を得るには、まだまだ時間がかかりそうだ。

棚田百選であるからには、これまでがそうであつたように、中山間地域等直接支払いを含む農業政策、それを掌理する役所の農政部局によつて農業の振興や営農の継続のためのさまざまな施策が準備される。しかし、重要文化的景観の場合には、文化財行政と景観条例・景観計画に基づく「都市・建設部局」は保護のた

めの「届け出行為の処理」を仕事とし、棚田地域の「振興」は財政処置を含めて関心が薄い。趣旨は理解できたとしても、相互の連携は現実問題としては難しいのが一般的である。

何よりも選定後、3年以上が経過して

いるにも関わらず、「文化的景観って、何ね?」、「選定されても何も良かることは無かね?」などと、どうも自己弁護するところではない。選定のための基礎調査から保全管理計画の策定プロセスに一貫して関わってきた者としては、「住民説明会や

ワークショップを通じて、住民理解のための手続きを踏んできたし、同意書に署名も頂いた……」などと自己弁護するところも可能なのだが、私自身も正直のところ、選定の「メリット」を実感できずにいる。

年間50トンを越える販売実績を持つ「棚田米蕨野」の売り上げが伸びた訳でもないし（むしろ減少気味）、イベントの集客力が伸びたということでもない。これらは選定メリット以前の問題として、広報活動を含む自己努力の不足に起因するものがほとんどなのだが、敢えてメリットを感じることがあるとすれば、選定後に設立したNPO法人が申請する助成金の獲得率の高さくらいのものだ。

しかしながら、選定後もその意味を問いか続けることや、選定を積極的に活用しようとする當為そのものに、この制度の持つ重要な意味を見い出すのである。ほとんどの選定地が経験則として持つ共通認識は、「重要文化的景観の選定は「ゴールではなくスタート」である」ということだ。

それも個別具体的な「届け出行為」に直面した場合に、多くの当事者が、継承すべき本質的価値を再度、問い合わせすることになるのである。特に棚田の場合には、保全意識が高ければ高い程、現状変更を伴う「営農条件の改善」を志向せざるを得ないのである。営農を継続するための最低限の整備にとどめるることは許容され

## 棚田の重要文化的景観、選定第1号としての蕨野の棚田(佐賀県唐津市)から

佐賀大学農学部准教授/NPO法人蕨野の棚田を守ろう会・副理事長 五十嵐 勉



(写真提供: 唐津市)

## 畦畔コンクリートとイノシシ除け ワイヤーメッシュは何を語るか

名譽ある棚田学会賞を含め数々の受賞

るにせよ、當農の継続のための前提条件は大きく変わっているのである。それは高齢化と獣害の深刻化に象徴される問題への対策に象徴的に現れる。

畦畔コンクリート・畦畔コングリート  
やセマチ直し、そして用水路整備等の基盤整備なのが、高齢化の進行は労働強度の緩和に加えて、より安全な作業環境を保証する基盤整備を必要とし、一夜で壊滅的な被害をもたらすイノシシ対策は、簡易なトタン板や電気牧柵での防除ではない完全防護設備の導入しか選択の余地はないのである。

蕨野を含む北部九州の石積み棚田では、すでに畦畔コンクリート整備は常態となつており、蕨野では選定以前から少しづつ整備を進めてきた経緯もあり、保存管理計画でも當農の改善上の必要性を認めてきた。

国（農水）や県の補助等による畦畔コンクリート整備やイノシシ除けのワイヤーメッシュ設置の見通しが得られたことにより、地区住民と市の農政部局での協議に基づいて計画を策定したが、県レベルでの事前相談の結果、文化庁への「伺い」が条件づけられた。この段階で市の文化財部局が中心となって、文化庁との間で協議を続け、最終的には、「作業の安全性に配慮した畦畔コ



第1種保存地区「南川原の高石積み棚田」と猪除けのワイヤーメッシュを背景にしたライトアップコンサート（NPO主催「ふるさとの灯りコンサート」、2011年10月1日）

ンクリート」と「景観に配慮したワイヤーメッシュ」の設置が、文化審議会において承認された。一方で、保存管理計画において、現状維持を前提とするゾーニング区分「第一種保存地区」での畦畔コンクリート計画は見送り、新たな手法を検討することになった。

平成24年3月で当初計画の畦畔コンクリートとワイヤーメッシュ整備は完了するが、住民の要望が終了したわけではない。今なお、営業意欲は継続しており、當農基軸型の棚田保全運動に搖るぎはない。これが、蕨野流の重要な文化的景観の保存と継承のスタイルなのである。自給程度の稻作やオーナー制度を含む都市との交流型の棚田保全運動の景観地では、別の選択もあり得るであろう。

住民と行政、そして私のようなよそ者でもNPO法人の会員としての発言権を有する者も加わりながら、選択したものなのだ。「景観整備委員会」の設置による開かれた場での検討と意思決定が必要だったかもしれない。遅ればせながら、唐津市においては、平成23年10月に委員会を設置し、今後の景観保全と整備の主たる検討の場を設けるようになった。

私は、相も変わらず一学識経験者として、NPOの役員として、そして蕨野の空家を借りてのウイークエンド・ファームとして、蕨野に関わり続けていくだろ。私にとっても重要な文化的景観の選定は、ゴールではなくスタートなのである。

## <<重要文化的景観とは?>>

文化財保護法第二条第1項第五号によって、文化的景観とは「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と規定されています。このなかで特に重要なものとして、都道府県または市町村の申し出に基づいて「重要文化的景観」が、平成18年から文化庁によって選定されています。

## <<棚田・段畑で選定されているのはどこ?>>

姨捨の棚田（長野県千曲市 平成22年2月22日選定）／奥飛鳥の文化的景観（奈良県明日香村 平成23年9月21日選定）／檍原の棚田（徳島県勝浦郡上勝町 平成22年2月22日選定）／遊子水荷浦の段畑（愛媛県宇和島市 平成19年7月26日選定）／四万十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田（高知県高岡郡梼原町 平成21年2月12日選定）／四万十川流域の文化的景観 源流域の山村（高知県津野町 平成21年2月12日・平成24年2月24日追加選定）／蕨野の棚田（佐賀県唐津市 平成20年7月28日選定）／平戸島の文化的景観（長崎県平戸市 平成22年2月22日・平成22年8月5日追加選定）／五島市久賀島の文化的景観（長崎県五島市 平成23年9月21日選定）／通潤用水と白糸台地の棚田景観（熊本県山都町 平成20年7月28日・平成21年7月23日追加・平成22年2月22日追加選定）／小鹿田焼の里（大分県日田市 平成20年3月28日・平成22年2月22日追加選定）



平戸島と生月島の文化的景観（長崎県平戸市）は、かくれキリストンの伝統を受け継ぎつつ、棚田が耕作され、形成されたもの。春日の棚田（写真）をはじめ、教会などが重要な構成要素だ



みを修復しようとすると、①設計基準を

満足する石積み構造が必要なこと、②工事施工者が行政に指名願いを提出している工事業者に限定されること、の制約がある。

このため、長い年月をかけて地元農家の手によって築造され、評価された棚田景観の修復に、地元農家がかかわらない矛盾が生じてきている。

#### ○協働による地元農家の

##### 主体性への副作用

景観保全活動にかかる課題には、「協働形成にかかる課題」「集落の課題」

がある。

##### 「協働形成にかかる課題」「集落の課題」

「協働形成にかかる課題」は、樺原の棚田で平成15年より継続的に開催されている地元懇談会の在り方に表れている。当初は地元農家の有志で始まったものの、平成19年からは上勝町による文化的景観の選定への取り組みや、他にもボランティアの受け入れや新たなプロジェクトがどんどん外部から提案されるようになった。

地元農家の保全意識が高いゆえに、行政や専門家、その他支援者との協働による事業が進展し、結果的に、「樺原を語る会」はプロジェクトを推進するための支援者に移管された形になってしまった。

なってしまった。

「集落の課題」には集落の根底にある、過疎化・高齢化の進展があげられる。土地所有者がすでに亡くなっていることや土地を離れていることが形式的な手続きを困難にさせ、また、次世代が住み続けられる環境整備に直結しないことが積極的な保全活動の意欲の低下につながっている可能性がある。

#### 3、地元農家の手によって維持される景観に向けて

##### ○地元農家がかかわる仕組みづくり

景観保全については、歴史的に地元農家の手によって維持されてきた棚田景観を、従来どおり地元農家が保全整備にかかわる「保全の仕組みづくり」が急務である。また、地元農家が積極的に景観保全活動にかかるためには、景観施策が集落の根底にある集落課題解決に直結した施策に位置づけられる必要がある。さらに、景観を活用した地域づくりがかりやすいストーリーで描かれ、地元農家の理解を得ることが重要である。

##### ○協働による集落課題の解決が

##### 景観保存・活用につながる

重要な文化的景観のような制度を活用する場合、地元農家と行政や専門家等の協働が必要不可欠になる。そのため、協働の状態を成立させるために重要な「目的的共有・活動協力・自己意思決定」を意識的に行なうことが重要である。さらに、目に見えない情熱や使命感、あるいは人との信頼関係などが協働の支えとなるだろう。協働形成の過程においては、事業

実施のためのプロセスとは別に、協働の重要な要素を確認する、あるいは醸成するようなプロセスを設定することがあります。「樺原の棚田」における重要文化的景観・保存計画の基本方針を表1に示す。その内容には、保存と活用の二本柱が明記されている。今後、この方針にある「保存」を実現するためには、地元農家の手が必要不可欠であり、また「活用」の実現によって、地元農家の暮らしの向上、言い換えれば集落課題の解決に導くことが肝心である。

表1 樺原地区文化的景観・保存計画の基本方針

- 保存計画は、樺原地区の歴史性を有する自然・環境・生活・生業から生まれた、価値ある棚田景観・集落景観・里山景観を永続的に保存するために策定します。【文化的景観の保存】
- 保存計画は、樺原地区の棚田景観・集落景観・里山景観が、持続的かつ魅力的な地域づくりに寄与できるものとして策定します。【文化的景観の活用】



上：乱層乱石積みの様子

左：樺原の棚田



私の在所は雲仙岳の中腹を源とする、千々石川が浸食した狭い谷あいの上流部に形成された標高250～450mに位置し、狭小な農地と集落が展開しています。お山、雲仙の火山活動と地殻変動により、最大45度に及び急峻な棚田は、豊富な伏流水と石工の流練された技術によつて、その姿を今に伝えています。

枯竭することのない豊かな水と、特徴的な石積みにして、「たんぼ」を生業とし、命を継いできた先人の英知には深い感慨を覚えます。日本の温潤な気候と四季折々の変化に富んだ風土は、それぞれの地域にあつた愛おしいまでの文化を育み、自然と接することによって、その恩恵を喜びとし、理不尽な厳しさを静かに受け止めながら「生きることの」流れにほんろうされ、浮きつ沈みつ骨を埋めていったであろう幾多の命。その長い長い歴史に裏打ちされたアイデンティティが日本国を創ってきたのでしよう。

ふるさと「岳」の風景を未来へ……。文化的景観への選定に向け、取り組みをはじめ、3年が経過したところです。

岳の自然、地形、地質、歴史、文化、景観構成などの調査報告がすでに収集されており、「文化的景観保存計画」の策定作業を進め、選定の申し出のための諸調査を図ることになります。小さな小さな集落が背水の陣で挑む一つの处方箋であり、一つのスタートでもあります。

現下のことは、よく周知通りですが、食料、エネルギー、水資源の枯渇、環境、温暖化の問題等々、産業革命以降の科学、化学（文明といつ）の発達と効率と市場

経済が育んだ負の遺産が不安と混乱をもたらし、地球が決して無限にないことを、異常な気象で免疫性を現し、我々に大きな命題を突きつけている気がしてなりません。

でしようか？ 文明は、人々の暮らしが豊かさに何をなしえないのでしょうか？ 光明を見いだすことのできぬ中山間農業、大河の流れに刺す竿もないでどうか。

はたまた、

浮かぶ瀬もないことに気づき、後

継者も担い手も失われ、恣意的な

りがちな風潮の中に

あって、宛

名のない手

紙に、住民

の理解を求

めることの難しさも確

かにあります。

いきおい、この制度へのメリット、デメリット

が論点にな

りがちです

が、メリッ

トは何もな

いと私はあ

えて苦言を吐きましよう。このメリットなるものは何がしかの補助金でもなく、活かすも殺すも、そこに住む人々の胸の中にこそあると……。いずれにしても、

マイナス思考から生まれるプラス思考だってあります。スタートラインはいつも引けるのです。何もしないことこそが、将来に非を残すと……。凡夫はそう考えるのですが……。

農政とは、目標を達成するために、それを実施することであり、基本法とは、目標を具現化するために、それを施行し、そして、国はそれを責務とします。経済の成長とともに、多くの補助金を投入され、科学、化学の恩恵を確かに受けた農業。それなのに、農業、農村が結果として、自立できなかつた根源的な問題はどうにあるのでしょうか。

そして、「衣食足りて礼節を知る」ことの真逆を歩いてきた日本。それでもなお、飽くなき市場原理を追求して止まないグローバル化に何を求めるのでしょうか？ 農業と農村の呻吟がここにあると思うのです。

社会には無用のものだけて意味を有します。企業的農業だけを農業というのは、農村と国民が望む真の豊かさとは同調しないでしまう。農民であることの資格を誰が問えるでしょうか？ システムとしての整合性を求める非人間的なことではないのでしょうか。日本の国民の心と魂、根源的な精神を抜きにした物理的なシステム（市場原理）とその方法論だけでは、農業はまわらせません。

21世紀は人間性の復興と魂の再生でありたいと願っています。そのための小さな取り組みと少しの勇気なのです。それとも、ともに墮ちますか？

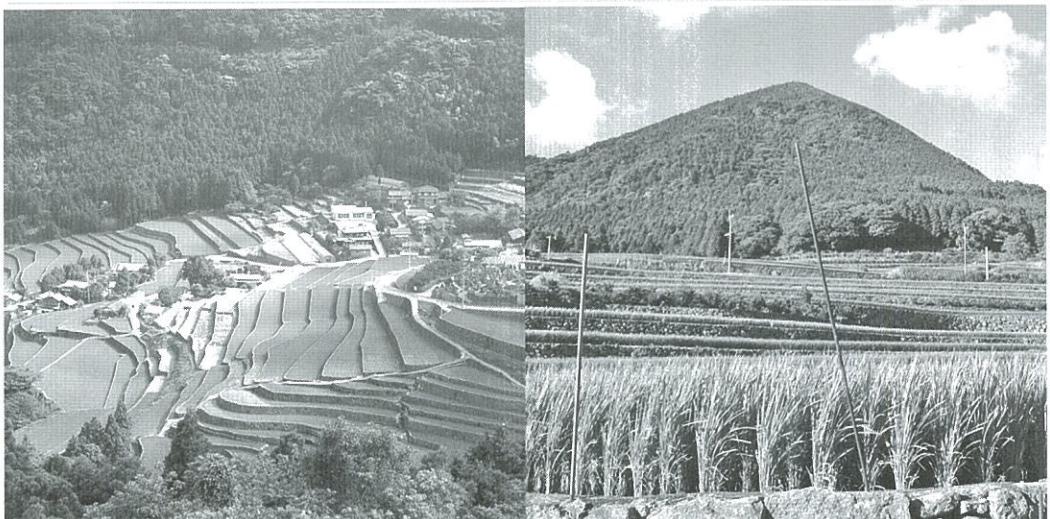
せん。先進国の経済破綻と混迷、それに伴う不安は農業、農村をも損なつ危機感として色濃く影を落としています。

不安と混乱の先に見えてくるものは何

## 岳の棚田（長崎県雲仙市）

### 重要な文化的景観を目指すなかで

岳棚田プロジェクト21代表 山本 哲郎



岳の棚田。「清水の棚田」とも呼ばれ、日本の棚田百選に認定されている。10haのなかに260枚の石積み棚田がある。  
平均勾配は5分の1と険しい。集落は37戸。（写真提供：雲仙市教育委員会）

岳棚田プロジェクト21とは：雲仙市（旧千々石町）岳地区で、地元農家で立ち上げた保全組織。小学生を招いて岳の棚田での体験授業や、都市住民とともに収穫感謝祭などを実施するなど、地域活性化を目的に活動している。

## 制度の創設から7年

明日香村)、「樺原の棚田」(徳島県上勝町)、「平戸島の文化的景観」(長崎県平戸市)などがあります。



高知県梼原町の神在居の千枚田は、「四万十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田」として平成21年2月12日に選定(写真提供:梼原町)

平成16年に文化財保護法の下に重要な文化的景観の選定・保護の制度が創設され以来、すでに7年の歳月が過ぎました。この制度は、消滅の危機に瀕していた棚田の役割を見なおし、その再生への人々の強い思いと地道な取り組みを踏まえて創設されました。現在、重要な文化的景観に選定された場所は計30か所に及び、水田・畑地、森林、水辺をはじめ、水や商業都市など多彩な景観地が含まれています。

そのうち棚田を含む選定地は最も多く、

最近の事例としては、「姨捨の棚田」(長野県千曲市)、「奥飛鳥の文化的景観」(奈良県

## これまでの文化財とはまったく異なる文化財

重要な文化的景観は、遺跡や優れた風致景観、独特的な動植物・地質鉱物から成る史跡・名勝・天然記念物などの他の文化財とはまったく異なる性質を持っています。例えば、水田や畑地は、土地を耕し、水を引き入れ、維持管理する人々の営みがないと成り立ちません。長い土地利用の歴史を引き継いで、絶え間なく繰り返される人々の営みが、今日見る壮大な農地の景観を造り上げたのです。人々の生



姨捨の棚田。長野県千曲市、平成22年2月22日選定(写真提供:千曲市教育委員会)

## 「重要な文化的景観」をまちづくりやむらづくりのキー「コード」!

文化庁主任文化財調査官 本中 真

化的景観の保護制度の創設を目的として文化財保護法の改正が行われた平成16年に同時に制定された法律で、重要な文化的景観とも極めて緊密な関係を持つています。

つまり、重要な文化的景観は、景観法に基づき地方公共団体が定めた景観計画区域又は景観地区の中から、文化的景観保存調査により文化的価値が明確化され、

自らの創意と工夫に基づいて、新たに取り組もうとしている「まちづくり」や「むらづくり」の道でもあるのです。

「重要な文化的景観に選定される」ということは、自らが生まれ育ったまちやむらの本当の価値を自らが確かめ、そのルーツを形づくった先祖への敬意と次世代を生きる子どもたちへの希望を込めて、生活となりわいの将来像を模索し、描き出し、さらには実行に移すための「ステージ」を創り出すということなのです。各地で繰り広げられている取り組みは、さまざまな制約にもめげず、まちづくりやむらづくりを着実に進めようとする人々の知恵・総意・工夫に満ちています。私たちは、そのひとつひとつに学び、大切にする姿勢を忘れてはならないでしょう。

## 土地利用に関する法律・景観法との緊密な関係

文化財保護法に基づく重要な文化的景観の保護の制度は、都市計画法、農振法(農業振興地域の整備に関する法律)、森林法などの土地利用に関する法律をはじめ、都市及び農山漁村等における良好な景観の形成を目的とする景観法とも深い関係を持っています。特に景観法は、重要な文

つています。

## その後の地域での取り組み

重要な文化的景観に選定された場所では、選定を目指して行った文化的景観保存調査の内容を発展させるために、定期的なワークショップや学習会を通じて、土地に刻まれた固有の文化的価値をさらに発見する努力が続けられています。また、選定時に定めた文化的景観保存計画に基づき、景観の本質である固有の土地利用形態を損なうことなく、より生活しやすく望ましい土地利用の在り方を目指して、改善のための整備計画を策定するなどの試みも行われています。それらは、専門家の知恵を借りながらも、地域の人々が

国の重要文化財(昭和35年指定)、通潤橋。四角い石を精巧に積み、美しいアーチを描くその巨大な建造物の中央から、豊潤な水が川面に落ちてゆく。この光景で有名な日本最大級の石造アーチ水路橋がある熊本県山都町(旧矢部町)へやつてきた。1854年、江戸後期に完成した通潤橋は、深い谷を形成する五老ヶ川に高さ20m、75・6mの長さでかかっている。これにより白糸台地に、新たに120haの水田が開拓された。

江戸時代、熊本藩内では「手永制」と呼ばれる現在の市町村単位に相当する地域の自治が認められ、自主財源もあった。

通潤橋や通潤用水は、矢部手永の長であつた惣庄屋、布田保之助を責任者とし、白糸台地へ水を運ぶため、当時の最高峰の石工や地域が一丸となつて造りあげたものである。

### 重要な文化的景観選定の用水と棚田

平成20年7月から平成22年2月にかけ、通潤用水と用水が潤す白糸台地(通潤橋の南北約4km、東西3kmに広がる)の棚田景観が、国的重要文化的景観に選定された。地元は町から重要な文化的景観選定に向けての話を持ちかけられたとき、身構えた。なぜなら、通潤橋がすでに文化財であったがゆえに大きなジレンマを抱えてきたからだ。

通潤橋は国の重要文化財に指定されて以来、橋を守ってきた通潤土地改良区や農家、町も橋の管理・修繕に手をつけられなかった。結果、漏水等に悩まされ、国による大規模な修繕工事に頼るばかり。だが平成14年度以降、方針が改められ、

地元の通潤土地改良区による日常的な修繕等、管理が可能になった。しかし、昔ながらの漆喰を使った修繕方法など失われた技術の復活から取り組まねばならなかつたのだ。白糸第一自治振興会事務局長、草野昭治さんは話す。

「文化庁の選定という話にはみんな最初はとまどいました。だけど選定されて、みんな前向きになつたですよ」

町教育委員会生涯学習課の西慶喜さんは言つ。

町教育委員会生涯学習課の西慶喜さん

## 熊本県山都町を訪ねる

### ~通潤用水と白糸台地の棚田景観、そして峰の棚田、苔の棚田~

取材・文 石井里津子



通潤橋は1854年、惣庄屋布田保之助のもと当時の最高峰の技術を持つ石工たちによって手掛けられ、水路や隧道なども地域が一丸となつて造った

元で作った廃油石けん利用が進んでいます。さらに、会の有志17名で「棚田景観プロジェクト会議」を誕生させ、自分たちでこの土地の価値を知ろうとセミナーの開催や、町農林振興課とともに地元の宝探しワークショップの開催など、地域活性化につなげていこうとしている。町農林振興課(白糸事務所) 東誠也さんは言つ。

「話し合いが自然と前向きになつてきましたね。このあいだも白糸地区の女性が、は言つ。

「話し合いが自然と前向きになつてきましたね。このあいだも白糸地区の女性が、

### 通潤用水と水路の知恵

通潤橋より北東へ約6km、通潤用水を

「もちろん、届け出は必要ですよ。しかし、生業の中で使われているものが文化財となつたわけですから、手を加えるのが当たり前。文化財の新しい保全や活用の仕方を考えないとダメですね。地域全体がこの生業を生かして自立する。これがこそが文化財も大事にしてもらえることだと思つんです」

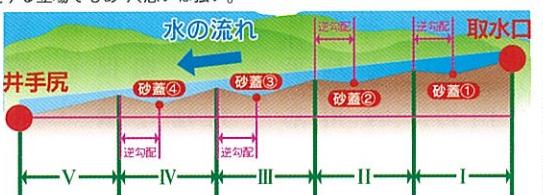


白糸地区の岩崎鈴雄さん宅。仏壇横に先代、皇室の写真と並んで布田保之助の肖像画がある。岩崎さんは朝夕、仏壇を參ったあと、布田翁に手を合わせる。通潤土地改良区で「配水方」として水を管理する立場でもあり、思いは強い。



白糸台地の棚田。平成22年2月、白糸台地すべてが重要文化的景観選定対象に。山都町の重要文化的景観選定への申出は一通り終了している(棚田の写真提供いずれも:山都町)

白糸



井手筋縫断面概念図「DanだんくまもとVol.9」(平成20年3月発行)熊本県発行  
「今に生きる江戸時代の知恵と技術力」長井 順より



写真右:菅の棚田。上菅集落34戸周辺。  
水源は鴨猪川で全長5.7kmの水路がつ  
くられた

写真中上:菅地域振興会会長、渡辺正弘さ  
ん。菅地域振興会は4集落85戸で結成さ  
れている

写真中下・写真左上:鮎の瀬大橋のたも  
とに建てた鮎の瀬交流館

さかのぼっていくと、小笹原田形分水がた  
えまなく水をわき出でさせ、7(白糸台地  
へ) : 3と公平に水を配分していた。取水  
口は、さらに500mのぼり白糸川上流  
にある。通潤用水は全長約17kmで、白糸台  
地の背骨となる丘陵部分に「上井手」が5.2  
km。その水が田を潤しながら下へと流れ、  
「下井手」(5・87畳)へと入り込み、台地の  
末端まで水が流れる工夫が施されている。  
西さんによると江戸時代の土水路の優  
れた技術が随所で残っているという。

勾配も単純に下げるだけでなく、逆勾  
配を利用したり、水路の幅に変化をつけ  
たりして水量や水速を調整し、土砂の堆  
積をコントロールすることで管理性を向  
上させる工夫が施されています」

つまり水路は、下方に掘り下げたあと、  
次は上向きの傾斜をつけ、あえて逆勾配  
の構造にしてあるのだ。水路を縦に切っ  
てみよう。V字型に勾配がつけられ、そ  
れを繰り返しながら相対的に勾配が下が  
っている(図8下図参照「井手筋縦断面概念  
図(美里町文化財保護委員 長井勲氏による)」。  
そして、そのV字型の底の部分に「砂蓋」  
(II「水路の水量調節を行う小さな堰」)が設  
置。水量が調節できる仕掛けだ。

また、こうした技術と水路幅員拡張の  
工夫を組み合わせ、意図的に土砂を堆積  
させる「泥ぜん抜き」も、通潤用水では  
10数力所確認されているとのことだった。  
さらに、隧道は水路よりも幅が狭く造  
られているといふ。これによって、隧道内  
の流速や水力を上げ、ごみや土砂を押し  
流す力を自然と高めているといつわけだ。  
平成21年、こうした土水路をコソク

さかのぼっていくと、小笹原田形分水がた  
えまなく水をわき出でさせ、7(白糸台地  
へ) : 3と公平に水を配分していた。取水  
口は、さらに500mのぼり白糸川上流  
にある。通潤用水は全長約17kmで、白糸台  
地の背骨となる丘陵部分に「上井手」が5.2  
km。その水が田を潤しながら下へと流れ、  
「下井手」(5・87畳)へと入り込み、台地の  
末端まで水が流れる工夫が施されている。  
西さんによると江戸時代の土水路の優  
れた技術が随所で残っているといふ。

勾配も単純に下げるだけでなく、逆勾  
配を利用したり、水路の幅に変化をつけ  
たりして水量や水速を調整し、土砂の堆  
積をコントロールすることで管理性を向  
上させる工夫が施されています」

つまり水路は、下方に掘り下げたあと、  
次は上向きの傾斜をつけ、あえて逆勾配  
の構造にしてあるのだ。水路を縦に切っ  
てみよう。V字型に勾配がつけられ、そ  
れを繰り返しながら相対的に勾配が下が  
っている(図8下図参照「井手筋縦断面概念  
図(美里町文化財保護委員 長井勲氏による)」。  
そして、そのV字型の底の部分に「砂蓋」  
(II「水路の水量調節を行う小さな堰」)が設  
置。水量が調節できる仕掛けだ。

また、こうした技術と水路幅員拡張の  
工夫を組み合わせ、意図的に土砂を堆積  
させる「泥ぜん抜き」も、通潤用水では  
10数力所確認されているとのことだった。  
さらに、隧道は水路よりも幅が狭く造  
られているといふ。これによって、隧道内  
の流速や水力を上げ、ごみや土砂を押し  
流す力を自然と高めているといつわけだ。  
平成21年、こうした土水路をコソク

さかのぼっていくと、小笹原田形分水がた  
えまなく水をわき出でさせ、7(白糸台地  
へ) : 3と公平に水を配分していた。取水  
口は、さらに500mのぼり白糸川上流  
にある。通潤用水は全長約17kmで、白糸台  
地の背骨となる丘陵部分に「上井手」が5.2  
km。その水が田を潤しながら下へと流れ、  
「下井手」(5・87畳)へと入り込み、台地の  
末端まで水が流れる工夫が施されている。  
西さんによると江戸時代の土水路の優  
れた技術が随所で残っているといふ。

勾配も単純に下げるだけでなく、逆勾  
配を利用したり、水路の幅に変化をつけ  
たりして水量や水速を調整し、土砂の堆  
積をコントロールすることで管理性を向  
上させる工夫が施されています」

つまり水路は、下方に掘り下げたあと、  
次は上向きの傾斜をつけ、あえて逆勾配  
の構造にしてあるのだ。水路を縦に切っ  
てみよう。V字型に勾配がつけられ、そ  
れを繰り返しながら相対的に勾配が下が  
っている(図8下図参照「井手筋縦断面概念  
図(美里町文化財保護委員 長井勲氏による)」。  
そして、そのV字型の底の部分に「砂蓋」  
(II「水路の水量調節を行う小さな堰」)が設  
置。水量が調節できる仕掛けだ。

また、こうした技術と水路幅員拡張の  
工夫を組み合わせ、意図的に土砂を堆積  
させる「泥ぜん抜き」も、通潤用水では  
10数力所確認されているとのことだった。  
さらに、隧道は水路よりも幅が狭く造  
られているといふ。これによって、隧道内  
の流速や水力を上げ、ごみや土砂を押し  
流す力を自然と高めているといつわけだ。  
平成21年、こうした土水路をコソク

リートを用いない「近自然工法」で改修  
し、整備したという。そして、布田保之  
助らが水路などを創意工夫した実験場跡  
が、朽ちつともしまも残っているのだそ  
うだ。江戸時代のこの地の人々の息づか  
いが感じられるようだつた。

さらに驚いたことに、功績者である惣  
庄屋の布田保之助が、「神」として祀られ  
いた。布田神社が建立され、豊作祈願の  
神社として地元に根付いていた。しかも  
「みんな朝夕、拝むよ」と言う。通潤用  
水の恩恵を受けている家はどこも床の間に  
布田保之助の肖像画を飾り、朝夕、手を合  
わせるというのだ。先の草野さんは言う。  
「神様たい。飾りじゃなか。秋祭りもあ  
るし、4月の命日と11月の誕生日にも祝  
詞をあげる。昔は布田翁の歌が校歌の代  
わりだったばい。ここじや、親鸞聖人も  
布田翁も同じよ」

## 峰の棚田へ

山都町に「日本の棚田百選」の地は2か  
所。白糸台地の棚田は認定当時申請され  
ず、百選には入っていない。白糸台地を  
後にして百選の一、峰の棚田へ向かった。  
ここも先に紹介した惣庄屋布田保之助  
が手掛けた「嘉永福良井手」が通つてゐる。  
峰の棚田へと到着した。

峰集落は21戸だが、旧小学校区単位の島  
木二区自治振興会は68戸(7集落)である。  
峰の棚田は、標高400mほどのところに  
約30ha。まとまって目にに入る範囲には  
20ha程度で、あとは山の裏側など見え

ないとこに点在している。最近  
は、ハウスも建ち、施設栽培で二  
ラ、ピーマンといった野菜が作  
れていた。山都町の中でも、熊本  
市内に近く、車で40~50分で行け  
ることもあり、40代の若い家族も  
暮りしている。

早春の棚田は、茶色く土手の草  
は枯れ、春を待ちわびていた。地  
元で「土手」と呼ぶ、土ほの法面  
はかなり広く、草刈りの労働量の  
多さを察することができた。その  
草刈りも行き届いている上に、耕  
作放棄地が目につかない。植林を  
して、山に戻したりもしていない  
という。これは「中山間地直接支



写真右:棚田百選になっている峰の棚田  
写真左:峰集落で話をお聞きした島木二  
区自治振興会の会長、林清明さん(右)と  
島木農地環境向上対策委員会の委員長、  
原田利一さん(左)

また、峰は県文化財「峰の観音様」も有名。  
3年ほど前盗難にあいオークションに出  
されていたものを集落のみんなで買い  
戻した。その額約200万円

払制度「農地・水環境保全向上対策」といってみんなのまどまりがよくなつたと。これは町全体にいえることで、農林振興課の東さんは「直接支払制度ができる前は、町全体で耕作放棄地が390haありました。それが約200haぐらいです」と話していた。

### 嘉永福良井手と峰の布田神社

嘉永福良井手の長さは、約11km。御船川で取水し、7つの隧道を通り、田んぼを潤した後、再び御船川へと帰っていく。島木二区自治振興会の会長、林清明さんが言つ。「春は隧道の掃除に行きます。中に入る」とノミでたたいた跡が見て取れますよ。

だいたいの隧道は立って通れます。少し腰をかがめるところもありますが」井手は、太く、ゆつたりと迂回しながら集落全体の棚田を潤すように造られていました。かつては田んぼだけでなく、民家の近くでは4~5件に一つ「いがわさん」と呼ばれる生活用水に使える堀池のよつなスペースがあつた。「さん」づけで、まるで人の名前のように。「感謝を込めて、そう呼んでいるんでしょうなあ」と林さんが笑つた。

ここに峰の田んぼを見下ろす最も高い場所に小さな神社が建つていて、布田神社である。白糸地区と同じ、布田神社だ。



通潤用水の円形分水。昭和31年にできたものだが、以前は板堰だった



通潤橋には3本の石管が通って、水が白糸台地へ送られている

中には布田保之助の肖像画が祀られており、「一礼一拍手一札で参る。収穫祈願の神様である。峰集落でも、全戸どの家でも床の間に布田保之助の肖像画を飾り、誰もが感謝の意を表する」とつ。

祭りのときは、島木の子どもたちがみんな総出で「子ども相撲」を布田神社に奉納する。女の子が強いのだとか。昭和40年代までは大人も相撲を奉納していた。平成のいまも共同体が、井手の管理や布田翁への感謝の念によって崩壊することなく、近年の施策のなかでいのちをつけないでいるようにも思えた。

### 菅の棚田へ

もう1か所、菅地域へ向かった。平成12年に開通した鮎の瀬大橋の向こうに、菅地域が開けていた。ここは棚田は約60haあるが、その際開削された「羚羊井手（鶴猪井手）」は、通潤橋・通潤用水を造った布田保之助の叔父、布田太郎右衛門が手掛けている。

### 菅の「迫田オーナー制度」

布田家は矢部手永の惣庄屋であり、布田保之助の父は困窮するこの地の救済に失敗し自害している。その後を叔父である太郎右衛門が継ぎ、保之助へとその職務をつないでいる。この保之助の叔父も切り立った岩山が横たわるこの地に用水開削を、と菅の人たちとともに難工事に着手した人物だった。

通潤用水より30年ほど前の1815~

1825年のことだ（明治38年の石碑によ

る）。切り立った岩を掘る作業は、「1日

に自分の弁当箱一杯の岩を掘る毎日であつた」と伝えられている。だが、開田さ

れた後も緑川の深い谷に阻まれ、「陸の孤島」であることに変わりはなかつた。この谷に橋さえかかれば……と菅地域振興会は昭和47年に発足し、関係機関に働きかけてきた。

その悲願の橋が平成6年に着手され、今度は、人をこの地に呼び込むと地域は動いた。6代目振興会会长を務める渡辺正弘さんは、「ここはやろうとなると、地域全体がまとまるんです。まとまるけど、良かですもんね」とゆつくり微笑む。

鮎の瀬大橋の完成にあわせ、地区の入り口に「鮎の瀬交流館」を建て、食事処にしたり、地元の物産や野菜、手作り加工品の販売、またオリジナルの人気商品「おじらせコロッケ」も開発した。さまざまな発想を形にしている。アイデアがあれば、それを実現させ、自分たちの活力へと変えてゆくしなやかさがここにある。棚田オーナー制度もその一つだ。

工品の販売、またオリジナルの人気商品「おじらせコロッケ」も開発した。さまざまな発想を形にしている。アイデアがあれば、それを実現させ、自分たちの活力へと変えてゆくしなやかさがここにはある。棚田オーナー制度もその一つだ。

### 菅の「迫田オーナー制度」

「土地が荒れんごとなるなり」と平成8年にはじめた棚田オーナー制度。地元では棚田のことを「迫田」と呼んでいたことから「迫田オーナー制度」と名付けた。会長の渡辺さんは、月刊農業くももと『アグリ』（平成21年10月号）にこう記している。「私達は、この棚田オーナー制度に地域の生き残りのための活路を見いだしたような気がしました」

オーナーは毎年10数組。月1回の作業

ている組が4組ある。その中の1人には棚田サミットの実行委員会にも入つてもらつた。

平成20年からはオーナーの1人が、熊本市内で菅の新鮮な野菜を週2回販売する「すげの野菜市場」もはじまつた。平成22年9月には、オーナーからの発案で、

7戸の農家による「縁側カフェ」もオープンした。7人の女性が自家の縁側を「縁側カフェ」として開放するのだ。休憩代とお茶代を払えば、休憩がてら地元の話が聞ける。日曜日、縁側カフェが可能な家にのぼりが立つ。そののぼりを目に訪ねればいい。

平成23年9月には、地元の廃校を利用した農家レストランがスタート。地元の女性たちが、土日に限り、予約制で地元の食材を使ったお弁当を作ってくれる。こうしたパワーと團結力の背景にも、井手の存在によって共同体を維持し、地域のつながりや思いを受け継いできたこの地なりではの強さがあるようだつた。

山都町の各地域は、用水路開削を一丸となつて実現させ、困窮を乗り越えてきた。だからこそ、一人では成し得ないことも地域みんなでならできる。そんな搖るぎない確信を誰もが抱えている。この地に生きる人は、先人たちから景観だけでなく、団結して未来を切り開いていく強さも受け継いでいるのだ。全国棚田サミットは、黄金の稲がまだ残っている時期に開催される。その美しい眺めの奥底にある共同体の在り方こそが、農村を次へと渡していく鍵であることを、この地は示していた。

8年にはじめた棚田オーナー制度。地元では棚田のことを「迫田」と呼んでいたことから「迫田オーナー制度」と名付けた。会長の渡辺さんは、月刊農業くももと『アグリ』（平成21年10月号）にこう記している。「私達は、この棚田オーナー制度に地域の生き残りのための活路を見いだしたような気がしました」

オーナーは毎年10数組。月1回の作業

のほか、いまや野菜畠も貸し出す。茶

のオーナー制度も平成17年からはじめた。

棚田オーナーで初年度から16年通り続け

## 新たな扱い手「地域おこし協力隊」

新潟県十日町市から

十日町市総務部企画政策課協働推進係

岸幸正

新潟県十日町市は、新潟県南部の長野県境付近に位置しています。長野県から流れる千曲川は新潟県に入つて信濃川と名前を変え、当市の中央を貫くように流れています。

農業では魚沼産コシヒカリの生産地として稲作が盛んで、信濃川と雪解けの水に育まれたお米は全国的にも高い評価を得ています。

当市の人口は平成23年3月末時点で5万9746人、このうち65歳以上の人口は1万8867人で、高齢化率は31.58%です。集落数は434で、そのうち65歳以上が50%以上の高齢化集落は48となっており、年々増加傾向にあります。

高齢化集落は山間地に集中し、そのほとんどの集落で人口の減

少から後継者や担い手の不足が問題となっており、共同作業や地域行事の開催が困難になっています。また日常生活においても農地の維持や集落運営などサポートが必要な状況となっています。当市ではこれを踏まえ「地域おこし協力隊」を導入し高齢化集落へ人的支援を行つています。

地域おこし協力隊は総務省の所管事業で、人口の減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に招

聘し、その定住・定着を図つて  
いくことを目的としています。  
配置期間は最長で3年となりま  
す。

平成21年9月に第1号の隊員を配置し、現在20名の隊員が活動を行っています。男女の内訳

活動を行っています。男女の内訳は男性13名、女性7名、年代も20代前半から60代まで幅広い年代の方を任用しています。

隊員のスキル、担当地域によって活動内容は異なりますが、

隊員は地域に入り様々な活動を行っています。ここでは活動の一部を紹介します。

まず、全ての隊員が行つてい  
ることが地域の共同作業のお手

伝いです。夏は草刈り、冬は雪堀りといった作業を通して地域に溶け込んじゃうよ。

に溶け込んでいきます。

や通院サポート、買い物代行など生活の利便性の向上を図る活

動の実施や、気軽に集まるるような行事の企画運営を行い、懇

いの場を提供する活動も行っています。また、年々負担が増えます。高齢者の農作業を支援すること

とで、精神的な張りを与えてい  
ます。隊員自らも農業技術を身

につける努力もしています。



イベントを盛り上げます。住民の減少からしばらく行われていなかつた盆踊りが、隊員の働きかけによって復活した事例もあります。

耕作放棄地に着目し活動する隊員もあります。耕作放棄地で野菜を栽培し、この野菜を販売することで得られた収益を東日本大震災の被災地へ寄付する取り組みを隊員が中心となつて実施しています。この目的は、野菜をつくることを農業体験イベントとして実施し、都会の若者を対象に参加者を募り地元の若者と交流することで地域活性化を図るというものです

りがいを与えています。こういった活動を通して、地域おこし協力隊は今や地域の新しい担い手として受け入れられています。現在20名いる隊員のうち6名の隊員が定住を希望しております、地域の後継者として期待されています。一方、3年後の任期終了後の定住に向けた有効な支援が確立されていないことが課題となつております、現在も検討を進めています。検討の中では、隊員のOBが中心となり地域活性化を目的とした中間支援組織をつくり、隊員の3年後の受け皿にするという案も出ています。

農産物の直売を行つてゐる地域では、隊員が支援することでお買い上げを伸ばし、耕作地を拡大した地域もあり、生産者へや

今後も隊員が活動しやすい、  
加えて、定住につながる環境づ  
くりを推進していきたいと考え  
ております。

# 気象情報を活かす

株式会社気象サービス 代表取締役社長

池田 徹  
(全国棚田(千枚田)連絡協議会 団体会員)

株式会社気象サービスは、東京の民間気象会社で、企業向けの気象情報の提供、システム開発を主な仕事としております。

今回、魚沼産のコシヒカリの产地として名高い新潟県十日町市で、気象情報を提供することで地域に貢献できないものかと考えて活動をはじめました。

活動のきっかけは、7年前に

「とんぼ project」という任意団体を立ち上げたことから始まります。私が十日町市で生まれ育つたこともあり、主に松之山の地域の方々と共に棚田の保全活動、ブナの森の再活動などの参加者を首都圏で募つて、四季を通してグリーンツーリズムを企画したり、集落における地域活性化事業のお手伝いを行ってきました。

また、地球温暖化による気候変動や異常気象が近年多くなっている中、勘と経験に頼る農業ではなく、気象情報を使って気候を読み、それを活かす農業のお手伝いができると取り組みを始めたところです。スマートフォンやパソコンを使って各地の気温、降水量、日照時間などの気象データ、天気予報を検索したり、當農日誌の記入や過去の記録の確認ができるサービスを準備中で、今年からモニターラーを募集しようと考えています。

さらに、独自の観測データも活用し、よりきめ細かなサービスも検討しています。気象条件に影響を受けやすい棚田ですが、

東日本大震災という未曾有の自然災害がありましたが、この地域も冬の豪雪、3・11の翌日3月12日未明の長野新潟県境地震、われ、高齢化が深刻な中山間地は過疎化がさらに加速し、棚田などの里山や雪国の暮らし、文化の維持が年々難しくなっているを感じます。

「とんぼ project」という任意団体を立ち上げたことから始まります。私が十日町市で生まれ育つたこともあり、主に松之山の地域の方々と共に棚田の保全活動、ブナの森の再活動などの参加者を首都圏で募つて、四季を通してグリーンツーリズムを企画したり、集落における地域活性化事業のお手伝いを行ってきました。

十日町市は、有数の豪雪地帯ですが、雪が多いことから奥山から里山までブナの森が広がり、豊かな水と肥沃な土、昼夜の温度差が稻作に適した風土であります。山は山菜の宝庫であり、動植物も豊かで、豪雪に耐え、自然と折り合いをつけながら繩文時代から人が暮らし続けてきた土地です。

しかし、この地でも棚田は年々減っています。昨年は、

条件に影響を受けやすい棚田ですが、



上：地震で崩壊する以前の留守原の棚田での田植え（十日町市松之山）  
左：棚田の稲刈りハサ掛け作業の参加者  
下：棚田での稲刈り



## お問い合わせ先

〒176-0002 東京都練馬区桜台1-20-4  
株式会社 気象サービス  
電話：03-5999-2727 FAX:03-5999-2723  
<http://www.weather-service.co.jp/>  
E-mail : [info@weather-service.co.jp](mailto:info@weather-service.co.jp)





小倉地区の棚田

新しく自治体会員が増えました

# 山形県上山市

か  
み  
の  
や  
ま

東日本大震災から1年が経ちますが、被災された方、福島第一原子力発電所の事故により避難されている方々に關しましては、いまだご苦労の多い日々を送られています。お亡

に、被災されましたみなさまには心よりお見舞い申し上げます。山形県上山市は、山形県の南東部に位置し、その地形は、藏王連峰の裾野に広がった形をしており、北東に向かって凹面を見せた半円状の盆地に市街地が形成されています。

道沿いの宿場としても栄え、温泉町・宿場町・城下町という3つの顔を持つており、また、歌人齋藤茂吉のふるさととして知られているように、歴史と文化、食と健康が豊かな自然環境と調和し共生する個性豊かなまちです。この特徴を生かして、現在、気候性地形療法を取り入れたウ

「上山城」がそ  
びえ、季節の変  
化に富んだ美し  
い自然と豊かな  
果樹、そして人  
の心身を癒す温



上山城



上山特産 棚仕立て栽培のラ・フランス



上山型温泉名又木川上、里山白水一キニダ

みの土手など、保全すべき景観を有しています。しかし、これまで道路や用排水路が整備されておらず、効率的な営農が困難であったことから、耕作放棄地が点在し、増加傾向にあります。

本事業を実施するにあたり、  
①安全・安心の売れる米づくり  
②水田団地化による園芸・花卉  
栽培の面積拡大、③地域住民と  
協働し、生態系に配慮した整備  
の3つを特に重点的に推進しま  
した。

生態系と景観保全の取組が次世代にも引き継がれていくことだと思います。

このため、地区内では、雑草の繁茂や病害虫の発生などによると農作物の被害が危惧されるとともに、担い手農家の育成や農道・水路等農業用施設の適正な維持管理に支障をきたし、さらには集落住環境に悪影響を及ぼすことが懸念されていました。そこで、生産基盤を一体的に整備し耕作放棄地の解消と優良農地の確保を図ることによる棚田の保全と花卉生産などの地域

①については、ほ場整備により作業効率を向上させることに加え、蔵王山系の豊富な水源を活用しながら、地域の栽培体系を統一してさらなる高品質米の生産を目指します。

②については、冷涼な気候を活かして栽培されてきたリンゴり、新たに、啓翁桜を作付し、農家所得の増加を図っています。

③については、地域の在来種

日本を代表する滞在型温泉保養地を目指しています。

棚田のある小倉地区は上山市の北東部、藏王山麓に位置し、酢川と藏王川の間に挟まれた段丘にある中山間地域です。総農地面積は35haで、棚田が多く存在し、杭掛けによる乾燥や石積整備し耕作放棄地の解消と優良農地の確保を図ることによる棚田の保全と花卉生産などの地域特性を活かした農業の推進とを目的として、鳴谷地地区農地環境整備事業を実施することとなりました。

ウなどの作付面積を拡大してお  
り、新たに、啓翁桜を作付し  
農家所得の増加を図っています  
③については、地域の在来種  
であるホトケドジョウやイワナ  
カギツバタなどの生物を保全す  
るために、小学生を含む地域住  
民とワークショップを行い、生

が本市で開催されることが承認されました。東北地方での開催は初めてであり、その責任の重さを感じているところではあります。改めて棚田の魅力を伝えいくとともに、次世代への資源の承継の必要性や、東北地方からのメッセージ等を強く発信できる機会となるよう努めたいと思います。みなさまにお会いできることを、心よりお待ち申し上げます。

カキツバタなどの生物を保全するため、小学生を含む地域住民とワークショップを行い、生

(山形県上山市 農林課 農政  
企画グループ 主事)

県上山市  
グループ  
農林課  
農政  
主事  
金子  
(舞)

金子  
舞

# 冊子『檍原の棚田』をお届けします

(有)環境とまちづくり

澤田俊明(全国棚田(千枚田)連絡協議会 個人正会員)

## ○2つの活動を行いました

活動は、①「全国棚田人と上勝棚田人の交流会」の開催と、  
②冊子『檍原の棚田ガイドブック』の会員送付を行いました。

今回の活動は、棚田連絡協議会の正会員の谷崎勝祥さん、松下和照さん、澤田俊明の3名が担当しました。

## ○活動①「全国棚田人と上勝棚田人の交流会」を開催しました

第17回上勝棚田サミットの開

活動実施者(澤田・谷崎・松下)

ガイドブックの構成は、「1、檍

原の棚田の概要」「2、棚田景観の価値」「3、棚田を守る」「4、檍原の歴史」「5、農地」「6、水路」「7、

### ◇棚田景観における「あぜ」の価値

棚田は、水田耕作のために山を切り取ってできました。自然の力だけ、あるいは人間の力だけで形づくられた景観ではなく、長い年月をかけて自然と人間の働きからできあがった景観です。

美術やデザインの分野で、異なる視点からの描画を一つの平面に描く「観面混合」という技法があります。棚田を真上からの視点で眺めてみます。そうすると、そこには曲線で描かれた山の等高線があります。今度は、棚田を水平からの視点で眺めます。そこには、水平な畦の直線が存在しています。棚田には、自然・人間・自然・人工、曲線・直線、という複合しつつ混合した景観要素が存在します。これらの景観要素が、まさに「棚田のあぜ」の一点に「観面混合」し凝縮されています。檍原の棚田において、訪問者の誘発行動調査(アフォーダンス調査)の中で棚田景観要素を調査しました。その結果上位3つは、「あぜの曲線」「水の音」「あぜの段」という結果でした。

生態学者・今西錦司の次の指摘が忘れられません。“自然と人間とが、数百年もの昔からはたらきあい、何度もやりなおしを重ねたうえでようやく作りだすことのできた、細かいところまでゆきとどいた調和の美しさが風景のうえにしみだしている”

(澤田俊明)  
ガイドブックは、A5サイズで85ページ、1冊500円です。

今回の個人会員の活動として、このガイドブックを全国棚田(千枚田)連絡協議会の個人正会員33名、個人賛助会員44名、計77名の会員のみなさんへ3月末に送付にあたり第17回棚田サミット実行委員会事務局の支援をいた

付させていただく予定です。送付にあたっては、第17回棚田サミット実行委員会事務局の支援をいた

催前夜の平成23年10月27日に、全国棚田人27名と上勝棚田人8名、計35名の棚田人交流会を「山の楽校」において開催しました。

## ○活動②冊子「檍原の棚田」をお届けします

棚田サミットの現地会場となつた「檍原の棚田」は、平成22年2月22日、文化庁から重要文化的景観の選定を受けました。今回、上勝町からの情報提供を受け、NPO法人郷の元気により

平成23年9月に「檍原の棚田ガイドブック」が作成されました。

道」「8、民家等」「9、信仰」のほか、檍原の棚田にかかる8つの「ラムから構成されています。

新たな活動の展開にむけてサミット終了後、棚田保全活動組織である「檍原の棚田村」の組織改正を行い新会長に松下和照さんが就任しました。活動規約の充実とともに、新たな展開を目指して再始動しているところです。

## 『檍原の棚田ガイドブック』コラムより抜粋

檍原の棚田ガイドブック(H23年9月)



先日は、「ライステラス59号」のご送付ありがとうございました。  
上勝町の棚田サミット特集は速報で、内容もよくまとまっており、すばらしかったです。徳島もそうです  
が、次回開催の熊本県山都町も遠くて、年金生活では参加不可能かと思います。  
ただし、和歌山県有田川町は近いので、参加の予定(78歳+3年)=81歳。81歳まで生きていきたい。

1、計報 2011年9月1日、愛知県新城・四谷千枚田の丸山絹子さま(76歳)、

私の棚田研究のスタートを教えてくれました。だんな様も具合が悪く、悲しいことです。

2、私の棚田へのキャッチフレーズ

## 「棚田は、人の心も耕す」

いかがですか? 2011-2年も良い年になりますよう。ワナ獣免許取得しましたよ。

犬塚雅敏(静岡県浜松市在住)  
個人正会員)

# 山形県版「第一回棚田サミット」の開催

山形県農山漁村計画課

阿達 治



みんなこんにちは。今年の冬は毎日が雪との闘い、その連續でした。そんな山形から、先日開催した「第一回山形県棚田サミット」の話題をお届けします。

先づ、第20回全国棚田サミット（平成26年）が、山形県上山市を会場に開催されることが決まりました。山形県としては、平成26年を大きな節目の年ととらえ、誘致を前向きに考えていました。

平成26年は、生活条件の厳しい中山間地域で、持続した営農をサポートしてきた中山間地域等直接支払制度第3ステージの最終年度です。また、東日本大震災発生から丸3年が経過し、本格的な復興への取り組みも軌道に乗っていて

ト（平成26年）が、山形県上山市を会場に開催されることが決まりました。山形県としては、平成26年を大きな節目の年ととらえ、誘致を前向きに考えていました。

平成26年は、生活条件の厳しい中山間地域で、持続した営農をサポートしてきた中山間地域等直接支払制度第3ステージの最終年度です。また、東日本大震災発生から丸3年が経過し、本格的な復興への取り組みも軌道に乗っていて

さて、ここ山形では、棚田の魅力を再認識しながら、経済的な課題解決につなげるため、付加価値資源として磨き上げていくことを目的として、平成20年に「やまがたの棚田20選」を認定しました。平地とは違い、単独組織だけでは活動するまゝならない棚田地域において「互いに補う関係づくり」を展開しようというものです。

全国棚田サミットの開催決定を契機に、ようやく一堂に会して話し合いつのスタートラインにつきました。

いま中山間地域で暮らし続けるためには、さまざまな課題が山積みです。それでも、きっとやれます。山形版棚田サミットは、その手応えを感じる場になりました。保全活動を通して魅力ある暮らしを実現していきます。

平成26年の全国棚田サミット開催に向け、「つながる」ことで、棚田に対する知名度アップを図り、手応えを感じる場になりました。保全活動を通して魅力ある暮らしを実現していきます。

現在、各地域でオーナー制度、CSR活動やボランティアなどで保全活動が続けられておりますが、今後も棚田の重要性、必要性を強調、問題解決に向け、さまざま施策が展開されることを期待しています。

## 編集後記

東日本大震災から1年が過ぎました。この1年、果たしてどれだけのことができたのかと思うと、反省ばかりであります。震災のこと、被災地のこと、いまも避難を余儀なくされ続けている方々のこと……ついに胸に置き、頭から決して離さないようにしています。この10数年、外部の人と「つながること」と、また地元にも外部にも「伝えること」で、道を切り開いてきた棚田地域の取り組みは、大きな実績であり、「負けない。あきらめない」勇気を全国に届けられると強く信じて、今号の「ライステラス」も編集させていただきました。

## 棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織

### 全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

静岡県松崎町 企画観光課

〒410-3696 静岡県賀茂郡松崎町宮内301-1

TEL: 0558-42-3964

FAX: 0558-42-3183

協議会 HP: <http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

石井里津子

ほしい時期であります。

その頃、全国の就農者の平均年齢は70歳に届くといつ予想もされ、第20回全国棚田サミットが東北で開催されることは、全ての不利条件を払拭するため、新たなステージへのキックオフ宣明的な意味を持つていると思います（そうしないければなりません）。

さて、ここ山形では、棚田の魅力を再認識しながら、経済的な課題解決につなげるため、付加価値資源として磨き上げていくことを目的として、平成20年に「やまがたの棚田20選」を認定しました。中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

今回の意見交換会は、平成23年会終了後、農林水産省において、中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

齊藤文彦（副会長）、徳島県上勝町長笠松和市）、中島峰広理事が、農林水産省に要望活動で訪れた際に、お互いの情報を共有する機会として開催を決定したものでした。

初めて開催された意見交換会には、小林厚司中山間地域振興課長をはじめ志知雄一中山間整備推進室長など関係者のみなさまのご出席をいただき、当協議会からは会長以下16名が出席しました。

役員からは、中山間地域等直接支払制度の法制化、農地・水保全管理支払交付金申請手手続きの簡素化、鳥獣被害対策、NPO法人化への支援などの要望や6次産業化、地域おこし協力隊活用事例などの報告がされ、小林課長からはそれについてご回答をいただき、大変有り難い回答でした。

今後も、こうした機会を重ね、中山間地域における情報が共有され、問題解決に向け、さまざまな施策が展開されることを期待しています。

さて、ここ山形では、棚田の魅力を再認識しながら、経済的な課題解決につなげるため、付加価値資源として磨き上げていくことを目的として、平成20年に「やまがたの棚田20選」を認定しました。中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

今回の意見交換会は、平成23年会終了後、農林水産省において、中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

齊藤文彦（副会長）、徳島県上勝町長笠松和市）、中島峰広理事が、農林水産省に要望活動で訪れた際に、お互いの情報を共有する機会として開催を決定したものでした。

初めて開催された意見交換会には、小林厚司中山間地域振興課長をはじめ志知雄一中山間整備推進室長など関係者のみなさまのご出席をいただき、当協議会からは会長以下16名が出席しました。

役員からは、中山間地域等直接支払制度の法制化、農地・水保全管理支払交付金申請手手続きの簡素化、鳥獣被害対策、NPO法人化への支援などの要望や6次産業化、地域おこし協力隊活用事例などの報告がされ、小林課長からはそれについてご回答をいただき、大変有り難い回答でした。

今後も、こうした機会を重ね、中山間地域における情報が共有され、問題解決に向け、さまざまな施策が展開されることを期待しています。

平成24年2月15日、全国棚田（千枚田）連絡協議会第2回理事會終了後、農林水産省において、中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

今回の意見交換会は、平成23年会終了後、農林水産省において、中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

**事務局ニュース**  
事務局、静岡県松崎町からのお知らせコーナーです。



中山間地域に対する各種法制度等の要望書を筒井信隆、岩本司両農林水産副大臣に面会の上、提出いたしました。

平成24年2月15日、全国棚田（千枚田）連絡協議会第2回理事會終了後、農林水産省において、中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

今回の意見交換会は、平成23年会終了後、農林水産省において、中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

平成24年2月15日、全国棚田（千枚田）連絡協議会第2回理事會終了後、農林水産省において、中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

今回の意見交換会は、平成23年会終了後、農林水産省において、中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

平成24年2月15日、全国棚田（千枚田）連絡協議会第2回理事會終了後、農林水産省において、中山間地域振興課（協議会役員）の意見交換会が開催されました。

平成24年2月15日、全国棚田（千枚田）連絡協議会第2回理事會終了後、農林水産省において、中山間地域振興課（協議会役員）の意見交



七折用水路開削によって開かれた石垣の村、戸川集落



### 機械室を見学する中学生

宮崎県日之影町の中心的な棚田を潤す七折用水路。全長34km。昭和4年に完成したが、明治からはじまった用水路開削は日露戦争や断崖でのトンネル掘削といった難工事に中断を余儀なくされながらも、地元の強い意思と労苦で完成した日之影町の大動脈である。

そして日之影土地改良区(現在の愛称:水土里ネット日之影)によって、七折用水に発電所が計画されたのは水路完成から半世紀後のこと。用水路から谷底までの高低差200mを利用した水力発電所、日之影発電所が昭和57年に誕生した。

最大毎秒1.44トンの水が、取水口から16km流れてきた地点で、急斜面の真下に流れる日の影川へと落ち、そこで待ち受ける発電所内の水車を勢いよく回す。それにより、最大出力2300kw(常時1817kw)の電気が生み出されている。

日之影発電所は、エアコンなど電化製品の使用が増えた現在でも、日之影町全体の年間消費量約90%の発電が可能である。ここで作られた電気はすべて売られ、12億円かかった建設事業費の償還(平成25年完済予定)に充てられるほか、水土里ネット日之影組合員(310名、受益面積133ha)の賦課金を軽くしている。ちなみに、過去最高で賦課金3万1754円／10a(S58年)だったものが、現在は7000円／10aだという。

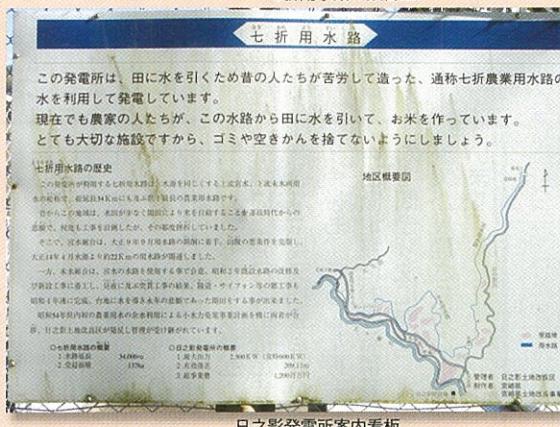
1000m級の険しい山々を貫く用水路開削の英知とともに、自然の力を最大限に生かすという、先人たちの先見の明が現在も未来もこの地域を明るく支え続けている。



## 七折用水路の本線の掃除



### 七折用水路の頭首工



先人たちが開削した34kmの  
用水路で落差利用し水力発電



日之影発電所遠景。発電は、山の上の用水路から谷底に落ちてゆく水の力で行われる（写真提供：水土里ネット日之影）